

深い青の世界感じて 帯広で平山郁夫氏版画展



現代日本画の巨匠・平山郁夫氏(1930〜2009年)の版画展が、帯広市のとかちプラザ(西4南13)で開かれている。鉱石のラピスラズリを砕いた顔料を使い、深みのある青色で月夜を表現した「パルミラ遺跡を行く・夜」などが来場者の目を引いている。

平山氏が広島での被爆体験を基に平和への祈りを込めたという、玄奘三蔵を題材にした「仏教伝来」や、過激派組織「イスラム国」(IS)によって一部が破壊された世界遺産のかつての姿を描いた「パルミラ遺跡を行く・朝」など約50点が展示販売されている。

一般社団法人「あったらいいね」(帯広)のチャリティ事業で、絵画展の企

平山郁夫氏の作品が並ぶ版画展(加藤哲朗撮影)

画会社「ほるぷエアンドアイ」(大阪府枚方市)が共催した。同社の市原清人社長(66)は「平山ブルーと呼ばれる、優しく安らぎに満ちた青の世界を体感して」と呼びかけている。

入場無料で、27日まで。午前9時半〜午後5時半。会場ではあったらいいね」が運営する地域食堂の様子も写真などで紹介している。

(古谷育世)